

A B r i e f N o t e N o . 2 1 8

発行日：2013年3月12日

リゾート・アイランド淡路島

吹田市 三輪 長司

最近淡路島へよく遊びに行く。明石海峡や鳴門海峡に橋が架かってからは、交通の便が良くなったことが大きい。淡路島は瀬戸内海のため気候が温暖だけれど、保養地としては洲本温泉があるぐらいで、昔から何も見るところがない平凡なところと言われてきた。

地名からしても「淡路」とは「阿波路」のことで、阿波(徳島)へ行くときの通過地だったのだ。

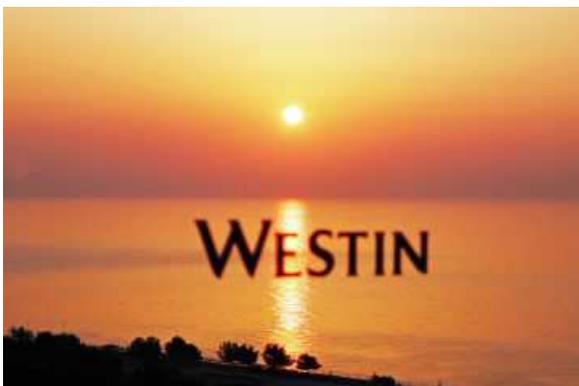
1. 広大な空間の夢舞台と一体化したウェスティンホテル

北淡地域は阪神淡路大震災で大被害を受けたが、明石海峡大橋の開通記念事業として国が2000年に行なった「淡路花博」がきっかけとなり、震災の復興も進んで綺麗な地域になった。この博覧会が花をテーマとしたことから、淡路島を「花の島」とする計画が進んでいて、全島に花の施設が増えている。宿泊施設としては古くからある洲本温泉以外では、鳴門海峡の南淡地域と明石海峡の北淡地域に、各々本格的なホテルが建設されている。そのうちの一つである、北淡地域の「ウェスティン・ホテル淡路」に先日泊まった。

このホテルはリゾート・ホテルとしては、日本で初めて本格的な国際会議場が別棟で併設されている。設計は世界的な建築家である安藤忠雄が、淡路花博のグランドデザインと併せて総合設計したものである。<http://www.yumebutai.co.jp/ando/index.html>

ホテル棟は広大な空間を構成する「夢舞台」と一体で、現代的なコンクリート打ちっばなしだ。ホテルのロビーは天井が高く美しい平面と曲面で構成され、白を基調とした色調で統一されていて、非日常的なリゾート空間を演出している。室内インテリアは、明るい色のモダンな調度品が使われている。ベッドは大きくてマットの厚さが特に厚い。このベッドはウェスティン特製で「Heavenly Bed」と呼び、ウェスティン自慢の世界共通のベッドだ。

リゾートホテルでウェスティンを利用したのはこれで2度目だ。最初はハワイのウェスティン・マウイだった。ウェスティンのインテリアは明るくシンプルで評判が高い。



《ホテルの部屋からの日の出》



《バルコニーからの夢舞台夜景》

しかしこのホテルには温泉がないし大浴場もない。このためホテルの近くにある「美湯 松帆の郷」へ行った。この温泉は明石海峡を見下ろす高台にあり、正面に明石大橋が眺められる。夜は大橋がライトアップされている。露天風呂から眺める明石大橋は絶景だった。

2. 小学校廃校跡を利用したカフェ「のじま Scuola」

淡路島北端を少し西側へまわった所にある、野島小学校の廃校跡を利用した今話題のイタリアン・カフェ「のじま Scuola」へ行った。<http://www.nojima-scuola.com/index.html> 昨年夏にオープンされたばかりで、地域の農産物などの販売も行なっている。



《小学校廃校跡カフェ のじま Scuola》

《壁面を飾る卒業生の手形》

Scuola とはイタリア語で学校の意味だ。敷地の門には小学校の標識がそのまま残されている。店内にも卒業生の記念の手形がそのまま展示されていてインテリアとして生かされている。今流行りのイタリア風のインテリアで店内は若者で繁盛していた。運動場跡は舗装もされず駐車場になっている。古い学校をうまく活用していて味わい深い雰囲気がある。

この店の運営はパソナグループで、廃校跡を市から部分譲渡されたという。この近くには、阪神淡路大震災で有名になった「野島断層記念館」がある。恐らく震災で校舎も相当傷んだのだろう。

3. リゾート地として有望な景観園芸の淡路島

淡路島は玉ねぎの一大産地だ。甘くて美味しい玉ねぎだ。この食材を生かして様々な玉ねぎ料理が開発されている。他の野菜も新鮮だ。牛肉も美味しいし海産物も豊富だ。これらの恵まれた食材を求め、温暖な気候と相まって別荘の建設も進んでいるようだ。

そして地元自治体が特に力を入れているのが花の景観園芸だ。ビニールハウスで育てた花を都会に出荷するだけの園芸工場ではなく、島内にはあちこちに花の景観公園がある。景観園芸師を育成する県立の淡路景観園芸学校もある。淡路花博の開催以降、景観園芸の技法が進んだそう。日本には昔から華道はあったけれど景観園芸の技法はなかった。

淡路島は周囲を穏やかな海に囲まれ、交通の便もよくリゾート地としての条件が揃っている。昔は何もない島と言われてきたが、今後はリゾート地として発展するだろう。♪♪

以上